

受付
7.11.14
議会事務局
総務課

(様式2)

令和7年11月14日

京丹後市議会議長 様

会派名 無会派
代表者氏名 鳴海公軌



調査研究等報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

記

1 日程

令和7年11月11日(火)～12日(水)

2 場所

京都信用金庫

Question (〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町 390-2)

3 目的

京都市における観光政策を学ぶとともに、京都に集中するツーリストを京丹後市域にどのように好循環させるかを研究する。

また、地元を拠点とする信用金庫によるまちづくりを学び、金融機関を核にした公民連携のまちづくりを研究する。

4 該当する政務活動費の用途項目

調査研究費

5 支出経費の内訳と金額

移動費

高速道路料金

5,560円 (丹後大宮一沓掛)

↑
9

ガソリン料金

4,437 円 (24.11L*184 円)

宿泊料

10,200 円 (チェックイン四条烏丸)

駐車場代

1,800 円 (ブーブーパーク境町御池南)

合計 21,997 円

6 参加議員名

鳴海公軌

7 活動成果の概要、所見

別紙報告書に記載

8 成果物、資料等

別添

視察報告書

日時：令和7年11月11日

会場：京都信用金庫

Question (〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町390-2)

目的：京都市における観光政策を学ぶとともに、京都に集中するツーリストを京丹後市域にどのように好循環させるかを研究する。

また、地元を拠点とする信用金庫によるまちづくりを学び、金融機関を核にした公民連携のまちづくりを研究する。

研修1：京都のオーバーツーリズムについて

京都市産業観光局観光MICE推進室 持続可能な観光推進課長 小野 耕作様

講演内容

○現状

京都市として、公的に「オーバーツーリズム」とは言っていない。その考えとしては、確かに市内の一部においては、過集中により生活者の便益にマイナスの影響が起きてはいるが、京都市内の観光地域としてはまだまだ誘客を求めている地域やスポットがある。

観光消費額は1兆9000億円、雇用効果は21万7000人、市税収入は390億円（全体の12.8%）である。【京丹後市：観光消費額：94億円】

R6年の観光客数は約5600万人であり、H27年と同程度になっている。そのうち、約8割が日本人、2割が外国人であるが、ビジネスでの利用も含む数字であることから、観光地においては外国人観光客の姿がかなり多いといえる。

また、観光消費額はH27では、約9700億円であったことから、大幅に増加しているが、インバウンドによる一人当たりの消費額の増加と、物価高騰の影響だと分析されている。

宿泊施設数はR6年で約6万室で、H27年の約3万室から倍増している。稼働率は年平均で78.5%、ハイシーズン稼働率は89.5%、外国人比率78.1%、平均客室単価30,640円であり、R6年は過去最高の数字となっている。

日本人観光客の97.5%、外国人は24%がリピーターであり、日本人観光客の53%が10回目以上となっている。

観光客のうち、宿泊する人は約30%。外国人は3泊以上する宿泊客も多い。

また、観光局のうち、さらに誘客を増やす振興課と、観光により発生する課題を解決するための課が分かれており、持続可能な観光推進課では後者を担当している。

○今後に向けて

日本人リピーターの減少傾向に危機感をもち、「これまでなぜ京都が愛されているのか」を考えてこなかった。考えずに、誘客を増やしてこれた。しかし、これからは京都の本質的な魅力を問い直し、持続発展させていく局面にあると考えている。

京都市においても、京北、大原野など分散化させていきたい。京都府とも連携して、今年度は「川の京都」のコンテンツ開発や送客に取り組んでいるが、広域化もしていきたい。送客の具体策としては、1. 観光資源の有無を調査、無いならば開発、有るならば広報とアクセスを構築していく。

また、オーバーツーリズムは全面的に悪いことではなく、住民も意識変革を生んでいきたいが、現状は急激な過集中による住民のストレスになっていることから、まずは持続可能な観光推進課としてはその解決をしていきたいということだった。

○所見

京丹後市も観光立市として、観光業をまちづくりの基幹にとらえている。改めて比較すると、観光消費額の差は大きく、京都市への観光を京丹後市につないでいくことで京丹後市の観光振興につながることは間違いない。一方で、京都市内において京丹後市を訪れたいかなるような情報に触れる場はほとんどないし、移動時間を考慮すると旅中でのPRは効果をあげにくいかもしれない。一方、京都市内に3泊している外国人が多いことから、このうち、1泊を京丹後につなげられるように、旅前での情報発信が有効な施策になるようにも感じた。京都市と連携した、観光施策の構築を期待したい。

研修2：京都信用金庫 クエスチョン広場について

京都信用金庫QUESTION 館長・コミュニティマネージャー 平野哲広様
副館長・コミュニティマネージャー 伊藤佳奈子様

講演内容

○現状

QUESTION

設計者：株式会社東洋設計事務所、

内装設計・デザイン：株式会社GK設計、株式会社クマヒラ、尾形良樹+SALT

施工者：積水ハウス株式会社

建築概要：敷地面積462.0㎡、建築面積404.34㎡、延床面積3320.81㎡

2025年9月末時点実績

延べ来館者数：106,493

プロジェクト組成数：739

イベント開催数：475

SNSフォロワー数：8,190

パートナー数：92

コワーキングメンバー：フルプラン会員数55名、ライトプラン272名

学生専用スペース：会員数296

当施設は一人では解決できない「? (問い)」に対して様々な分野の人が集まり、みんなが寄ってたかって答えを探しにいく、京都信用金庫が運営する共創施設。

コミュニティマネージャーは地域のネットワークを活かし、様々なジャンルの先駆者たちと力をあわせて課題解決にあたる。

QUESTIONを通じて、一人でも多くの人に新しい気付きや出会いを体験することで、地域全体をクリエイティブでイノベーションが起りやすい場所に変えていくことを目指す。

北都信用金庫も関わり、京丹後市のプレイヤーも協創に関わっている。

直接的なステークホルダーではない人もパートナーにしているが、そこには短期的なメリットはあまりないかもしれないことでも、自分たちの認知にないところからの出会いが、新たな価値やイノベーションを生み出すという考えがある。

ひいては、それにより生まれた価値を地域内の人に提供していくことにつなげられる。

元々は京都信用金庫河原町支店であったが、耐震の問題で建て替えが必要になった。そこで、京都信用金庫の理念であった「コミュニティバンク」を体現する建物としてコンセプト

トが形成された。なお、金融機関機能はバックオフィスセンターをもつことで、機能集約もはかられた。

QUESTIONと同時に、京都信用金庫のうち多くの支店を「課題解決型店舗」として、窓口営業を正午まで、午後からはステークホルダーとの相談や、地域社会の課題解決に取り組む時間としている。

採算性については、QUESTIONだけで黒字化を目指すのではなく、京都信用金庫全体での採算性、広報機能、組織風土の醸成機能などの効果があり、加えて短期的な評価ではなく、長期的に地域に新たな価値が提供されることを大切にしている。

○所見

協創の場をつくり、交流によりイノベーションを起こすという構想は京丹後市でいうと「自然あふれるビジネスモデル」事業（京丹後リビングラボ）が連想される。

また、学生と社会人の接点の場をつくり、プロジェクトを起こすという構想は、「未来チャレンジ交流センター」事業（Roots）が連想される。

また、人が多様に交流するコワーキングの拠点ということでは、移住支援センターを併設する「まちまち案内所」なども連想される機能だ。

いずれも京丹後市の場合は、市が業務委託している事業となっているが、QUESTIONの場合は、信用金庫が独自で実施している。

もちろん、経済規模が大きく異なるため、乱暴な比較は避けるべきだが、京丹後においても行政予算で実施し続けることが最適とも言い難い。特に、これらは長期的に地域に対してどのような価値をつくるかということが目的であるなかで、短期的なKPIの設定は困難である。例えば、短期的な登録者やプロジェクト数を多くする方策が、必ずしもイノベーションにつながらないという側面があるからである。

こうしたなかで重要なのは長期的な評価を大切にするという評価者の姿勢を共有することであるが、これを財政状況の厳しい市や市議会で行うことは難しくもある。

このような協創の場があることが、イノベーションの土台になることは確信する一方で、どのような主体が、どのようなアカウンタビリティで、どのように評価していくのかについて、引き続き考えていく必要がある。

研修3：フィールドワーク（観光課題について探究プログラムの演習）

場 所：京都市役所周辺河原町エリア

内容

観光政策を学び、問を立てて課題解決にせまることの意義を学んだうえで、参加議員でグループを組んで外国人旅行者にヒアリングを実施した。

京都の本質的な価値とは何かにせまるとともに、京都市以外のエリアでの観光送客の可能性に探る聞き取りを目指した。（福知山市議会議員、泉佐野市議会議員、豊中市議会議員、交野市議会議員、栗東市議会議員、京都市議会議員と同グループ）

どの議員も日常的に外国語を使っているわけではないので、不安を抱きながらもなんとか4名の方（カナダ、フランス、アメリカ、オランダからの旅行者）に話を伺うことができた。

質問内容は、①京都を滞在先に選んだ理由、②滞在して感じた良いところ、③良くないところ。

①京都を滞在先に選んだ理由

- ・風景や寺社仏閣など、日本らしさを感じられると思ったから。
- ・酒や食べ物などを味わいたいから。
- ・日本の歴史（戦国時代）の研究を母国でしていて、その歴史を感じられるから。

②滞在して感じた良いところ

おおむね上記の期待通りだと感じている回答だった

③良くないところ

- ・外国人が多く、少しがっかりした。
- ・静かな空気ではないのが、残念。

○所見

滞在日数が3泊の方もおられたが、歩いて京都エリアを楽しんでいるということだったが、外国人ばかりで残念とも言っておられたことから、やはり京丹後含めてエリア全体に送客することで旅行者の満足度を高められることにもつながると感じた。高速バスや鉄道の外国人観光客の利用状況も調べてみるなどして、京都に滞在する外国人旅行者のアクセス面での改善ができるとういと感じた。

また、議員は政策を評価する役割が重要であり、行政の政策が市中にどのように波及しているのかを知る必要がある。各視察においても、見学や担当者からの説明だけでなく、その施策がどのような影響を起しているのかを調査することが重要だと感じた。